

「なかのうスタイル」を経験して一言!

先輩から教わったことを後輩に継いでいきたい!

高校生が学んだことを小中学生に伝える授業の様子

自分の成長につながりました!

料理に興味がわいてきました!

子どもたちと話すのがとても楽しかった!

中標津町で農産加工やってみたい!

三品教諭(左)と生徒たち



農業と郷土に愛を育む
「なかのうスタイル」

地域を教材に
地域を学ぶ

中標津農業高校は、建学70年の歴史を有する農業高校。生産技術科と食品ビジネス科で構成され、3学年106名の生徒が日々学んでいる。これまで「食」と「環境」を重視した農業教育を推進してきた同校が、近年取り組んでいるのが「なかのうスタイル」だ。担当の三品歩教諭はこう説明する。

「『なかのうスタイル』のテーマは、『地域を教材にして地域を学ぶ』。町内の小中学生を対象とした食農教育活動や、加工品開発を行っています。具体的には、小中学生と一緒にじゃがいもやブロッコリー、小麦などを育てて収穫までを行う農業体験や、地元特産品を使った商品開発、事前に地元の農家や企業へ視察して学んだことを小中学生に伝える授業など、活動内容は多岐に渡っている。

今年度は、さまざまな酪農家を訪れ飼養方法の違いを学習したり、小中学生とともに中標津町の自然や食材を味わうキャンプを実施。また、地元の新規作物である小麦を使ったパン開発では、道内の高校生による創作パンコンテストで「アイデア賞」を獲得している。

郷土愛を育み、まちの未来につながる活動

これらの取り組みは生徒たちにとって貴重な経験となるだけでなく、高校生が中心となり小中学生・地元農家・企業の架け橋となることで、子どもたちの職業選択肢を広げ、郷土愛を育むことにもつながっている。「中標津町は、町内に大学などがないため若者の流出が顕著。たとえ進学で町外に出ても郷土愛があれば、いつか戻ってくれるはず。『なかのうスタイル』は、故郷の存続を願う取り組みでもあるのです」と三品教諭。

高校3年生の土井上さんは、「将来は地元で農業関係の仕事がしたい。もっと多くの人が町に残ってくれたらいいですね」と笑顔で話してくれた。スタートして3年目と、まだ始まったばかりの「なかのうスタイル」。参加した生徒や小中学生たちが近い将来、地域で活躍する姿を見る日が楽しみだ。



北海道中標津農業高等学校

住所 中標津町計根別南2条西1丁目1番地1

TEL 0153-78-2053

URL https://www.nakashibetsu.jp/